

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 6月 16日
各ユニット共通

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2773600479		
法人名	有限会社 アラキコーポレーション		
事業所名	グループホーム きさべ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	交野市私部南二丁目18番6号		
自己評価作成日	平成 22年 5月 9日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所基本情報】

① 介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	
② 情報提供票を活用する場合	

① 基本情報リンクURLを記入 ② 別紙情報提供票のとおり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
所在地	〒546-0035 大阪市東住吉区山坂五丁目5番14-103号
訪問調査日	平成 22年 6月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「その人らしさ」をモットーに、最期の日までその人らしい生活が送れる様支援し、支えと成るスタッフ一人一人が頑張り過ぎない様仲間同士支え合える、1つのホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームとして今年は、次の心得を掲げ、運営者、職員一同が毎朝、確認し、実践に励んでいる

- 1、本人の尊厳を保つ
- 2、本人中心のケア
- 3、本人らしさの支援
- 4、スタッフであるあなたも大切な人

ホームは、開設以来7年目になるが、職員18名のうち半数の9名が開設からの勤続者で、その上、ケアを続けながら介護福祉士の資格合格者が11名となっている。特に、運営者の20数年に亘る介護経験と、職員同士のキャリアの分かち合いによる配慮の行き届いた介護で、利用者は笑顔が絶えることなく楽しい日々を過ごしている。

又、交野市の担当者のご配慮により、市内のグループホームの連絡会を設け、隔月に夫々のホームの職員が、交代で現場を見せて頂き、その後、職員同士が話し合っって介護の進め方をはじめとして、貴重な体験談の中から、ケアレベルの向上の参考としている

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し、カンファレンス時に評価して、共有している	毎月、月曜日に1回、職員会議を開催し、理念の実践と改善、ケアについての情報交換を行っている	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している	庭での行事は、近所の方にも声を掛け、参加を呼びかけている	新開発の住宅地で、自治会組織までには至っていない。日頃のご挨拶、グループホームPRチラシの手渡し等で交流を図っている	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気楽に立ち寄って頂き、介護相談や見学を随時に行っている	/	/
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の理事さんとは常に連絡を取り、意見交換を行っている	2ヶ月ごとに、偶数日の第3木曜日を開催日としている。席上で報告、情報交流等を実施している	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課の取り組みに積極的に参加し、施設見学会等の協力に努めている	市役所の介護保険課の職員さんとは、良く連絡を取り合っており、市内の5ヶ所のグループホームを職員が相互に見学させてもらい、介護向上に役立たせている	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束しないケアに取り組んでいる	22年4月より「身体拘束排除宣言」を理念に掲げ、職員一同取り組んでいる	職員一同、身体拘束は原則として行わないこととして見守りに努めている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修には職員も参加し、十分に理解させる為、カンファレンスで常に周知するようにしている		
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は毎年、研修計画に従って必要な研修を受けている		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今までの経験を活かし、家族の知りたい情報・不安を察知し、十分な説明で納得を図っている		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映 あん員	月1回の介護相談員の来訪の際に、利用者の意見・不満・苦情を伺う機会を設けている	介護相談員の報告も頂いており、又、ご家族アンケートの集計でもご満足が伺える。ご意見等があれば、運営者が直ちに対応している	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、すれらを反映させている	「相談・苦情・申し出箱」の設置	定例の会議にて自由な意見交換が出来る。又、日常の自由な対話も出来る	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	毎月、事前に希望休を把握し、長期休暇も可能な勤務状況		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議職員には年間研修計画に従って、研修を実施している。勤続年数によって資格修得を勧めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡会を通じ、ネットワーク作りをしている。各グループホームの見学を相互に行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入居前の生活を維持出来るように、ご家族からの情報を基にケアに努める。		
16		<p>○ 初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入所に至るまで何度も面接・連絡を取り、理解を深めるよう努めている。		
17		<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談内容によっては、他のサービスや医療機関とも相談している。		
18		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	まずは、入居前の生活と変わらないようにサポート程度のケアに留めて、本人の希望を見極めて行く。		
19		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	ご家族に代って出来る事はスタッフで行うが、ご家族にしか出来ない事はスタッフと話し合いながら、協力して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人との面会・外出・電話・手紙を支援している。	ご家族、知人、友人の来訪があり歓迎している	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人に合った過ごし方を基に、仲良く暮せるよう、不平不満を察知し、暮し易く取り組む。		
22	9	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族への手紙・電話・面会に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○ 思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも「その人らしさ」をモットーに、本人本来の暮らし方に努めている。	職員の、利用者の症状についての朝夕の引継ぎは、各、約30分。カンファレンス等では全職員の共通情報として把握し、介護に活かしている	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方に努めている。		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者さんとの会話に努めている。カンファレンスで全職員の共通情報としている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	毎日の申し送りから問題点等を知り、ケアカンファレンスで話し合い、一人一人に合った介護計画にしている。	職員がチームとして、利用者一人ひとりの情報を共有している	
		本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実戦への反映	毎日の記録の徹底に努めている		
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	職員は利用者さんお一人毎の気持ちを汲み取って柔軟な対応に取り組んでいる		
		本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	支援している		
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	毎週月曜日はホームドクターの往診、入居者の緊急時は24Hホームドクターにて対応、指示に従っている。	毎週内科医師の往診、歯科医師は毎火曜日の往診を頂いている。年に2回は精密検診も受診	
		受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○ 介護職員との協働	職員は日常の活動の中で、看護職員や訪問看護師等に支援していただいている。		
		介護職員は、日常の関わりの中で、とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○ 入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時の情報提供、退院時はドクターより情報を頂き、ホームドクターに繋いでいる。		
33	12	<p>○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	ホーム開設以来、終末まで生活出来るように、ご家族・ホームドクターと話し合い、方向性・看取りの同意を得ている。	重度化、看取りは何名さんか、お見送りをされ、十分支援されてきている	
34		<p>○ 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	常に訓練している。		
35	13	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身に付けると共に、地域との協力体制を築いている</p>	地域の協力体制を今年度強化した。	スプリンクラー設置済、避難訓練も消防署員の立会いで2・3階とも、年2回実施済み	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている</p>	職員一同が心掛け、対応している。	年間研修計画で、毎年各種の必要な研修科目を定例として組み入れて実施している	
37		<p>○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	献立選び等、何気無い会話から、希望を表せるように、働き掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	「その人らしさ」をモットーに、支援している。		
		○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している	日ごろの会話から、話し合いで支援している		
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントしたメニューと一緒に調理出来るようにし、後片付けも一緒に行っている	リクエストも頂いてメニューを作り、用意している。出来る方にはお手伝いをしてもらっている	
		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日ごろの症状から、顔色も見ながらの、支援が出来ている		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは入所時より行っている。		
		○ 排泄の自立支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートにて、その人その人に合わせた支援を行っている。		
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、職員の都合で、曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	汗をかいた時、汚染時、個々に応じるよう支援している	希望にもお答えできるよう、配慮されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に清潔に努め支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	服薬の徹底周知に努めている、トラブル防止にも努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・庭弄り・畑仕事等、その人その人に合った支援に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協力し、出来る限り支援に努めている	近所への適宜の散歩や、敷地内で栽培の野菜等の手入れ、収穫も手伝ってもらっている	
50		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	自己管理出来る方には、買い物時に自ら購入して頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	自由にして頂いている		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りに努めている	殆どの利用者はリビングで多くの時間を一緒に過ごしておられる。職員の協力や、各自の好みの作品を適宜に掲示している	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース作りを行っている		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の希望に添った家具配置等に勤めている	利用者が意識して清潔に、しかも広く使っている。部屋には余り家具道具類は置かれていない	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のレベルに合わせた生活環境作りに努めている		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができています	○ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない
66	職員は生き生きと働いている	○ ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う	○ ① ほぼ全ての家族が ② 家族の2/3くらいが ③ 家族の1/3くらいが ④ ほとんどいない